

アジア・太平洋研究センター主催講演会

日 時：2011年7月25日（月）

場 所：名古屋キャンパス J棟1階 特別合同研究室

テーマ：中国抗争（異議申立て）政治の基本類型

報告者：応 星（中国政法大学社会学部長，教授）

通 訳：賽漢卓娜（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員，南山大学非常勤講師）

* 講演は中国語



1. 現代中国の抗争政治の類型
2. 集団性事件の発生メカニズム
 - (1) 集団性事件の概念
 - (2) 集団性事件と関連概念の区別
 - (3) 集団性事件の発生メカニズム
3. 集団陳情と集団性事件の比較
4. 利益関係者が主体となる集団性事件と利益関係者がいない集団性事件の比較
5. 結論

中国の現代抗争政治には、①利益関係者ではない者が主体となる集団性事件、②利益関係者が主体となる集団性事件、③集団上訪（集団陳情）、④集団性行政訴訟の4つの基本類型がある。番号順を追って組織化と合法化が高くなっていく。そのうち、①と②の一部は重なり、集団性事件を構成し、③と④の一部は重なり、維権（権利擁護）活動を構成していく。

集団性事件は、人民内部に発生する矛盾によって引き起こされ、10人以上の民衆が自発的に参加する、主に政府あるいは企業・非営利団体に対する集団的に集合する事件である。その間に明らかな暴力的衝突や深刻な違法行為を発生させ、社会秩序に多大な消極的な影響をもたらす、と定義される。集団性事件は、集団的権利擁護活動および反乱、集団犯罪、械闘とは別の次元におかれている。

集団性事件の発生メカニズムとして、6つの次元が提示される。

①構造的問題の次元：

構造的な利益分布がアンバランスになったことで引き起こした社会問題である。これらの次元で発生する事件は、偶発性を帯びることがしばしばである。しかし、偶然に発生する事象の背後に、官－民の対立、社会的な不平等などの社会的利益の深刻なアンバランスが隠されている。

②道徳震撼次元：

一部の“道徳震撼”性質を帯びる触発的な事件が人々の怒りの感情を引き起こしていく。潜在的な対立が存在する地域で、このような人間の道徳の限界ラインを越える事件が発生すると、集団性事件に発展していく可能性がある。

③概念化信念次元：

情報伝達の迅速さと情報濾過によって、人々はいわゆる“概念化信念”を生み出す。すなわち、ある社会問題の原因に対して共同認識を持つようになることである。情報は携帯電話のショートメールやインターネットを通じて短期間に行き渡る。潜在的な不満を持つ人々は、政府が必ずきっかけとなる事件を操作して、民衆を欺いているに違いないと思いたる。

④次なる刺激次元：

当事者もしくは処理に当たる者は、不適当な言行によって次なる刺激を構成し、高い圧力をかけられた状態にある民衆の感情に起爆してしまう。例えば、警察を動員したり、真実を隠蔽したりすることで、民衆の怒りに点火することになる。

⑤情調的境地動員次元：

この時点に参加する群衆はもう相当な規模に達しており、この規模は参加者が集団に身を隠すほどの十分な匿名性をもつため、参加者の行為は非理性的なものに発展しやすい。人々は、相互に知り合い同士である場合、礼儀を尊重し、理性が働くが、見知らぬ人々の間では、理性を失いやすく、暴力性を発揮する傾向にある。

⑥究極的刺激次元：

現場での措置に少しでも失当がある場合や、コントロール不足、措置が間に合わない場合や、コントロール過剰の場合であれば、騒乱を引き起こす恐れがある。

以上の6つの次元は毎回すべて発生するとは限らない。途中までで止めることができれば重大な結果に至らないで済むが、最後の次元まで至ると、必ず大きな騒乱となる。

集団陳情において、利益の衝突は事件発生の基礎となり、情緒は行動の推進力となるが、集団性事件において、情緒は事件発生の基礎となっている。また、集団陳情は組織されており、その行動はおおよそ予測可能となるが、他方、集団性事件は無組織性行動であり、行動の発生初期は突発性があり、その過程の動員は“情動的境地動員”であり、行き先は予測不可である。さらに、情緒は集団陳情においてコントロール可能である。陳情には組織者が存在しており、組織者は目的に達成するために、常に衝突の形式、規模等に対して理性的な調整と制御を行う。だが、集団性事件では、制限されるはずの情緒は制御不可の情緒となっていく。その急進的な非理性的行動は、たとえ“事の起こりには原因があり”であるとしても、“法律において根拠なし”である。

利益関係者のいない集団性事件には純粋に不満を晴らす攻撃性を帯び、比較的制御しがたい。いかに速く事態を掌握し、情報公開や警察力を慎重に導入することは、このような集団性事件の規模の拡大や再発生防止のためのキーポイントとなる。利益関係者が主体となる集団性事件には、完全に不満情緒を晴らすだけでなく、利益分配のアンバランスを補う防御性に基づく特徴をもつ。これらの事件は相対的にコントロールしやすく、談判と協議等の方式を通して問題解決に導く。

結論として、以下の3点が取り上げられる。

- ①集団性事件には突発性という特徴の背後に或る種の構造的要素が存在する。
- ②集団性事件の発生原因はある程度の合理性をもつが、参加者の行動を進める論理になると合法性を具備しない。
- ③集団性事件は行動者の持つ諸要素が互いに構成し作用し合った産物である。

(文責：賽漠卓娜，蔡毅)